



日本の“宝島”あまくさ

ほんど

まちづくり協議会だより

郷土愛あふれる若者が活動するまちづくり

元号が令和に代わってから、あとひと月で一年が過ぎようとしています。中国に端を発する新型コロナウイルスが、世界的に猛威を振るっています。いつどこで、感染するかわからず困ったものです。異例の全国の小、中、高校が一斉休校となるなど異常事態になりました。

各地のイベントや行事が中止になり、影響は計り知れないものがあります。一日も早い終息を願うばかりです。

本渡まちづくり協議会では、作成した、まちづくり計画の検証を行いました。まだ、成果の見えない部分もありますが、おおむね良好でありました。

計画の中の一つである「未来の大人応援プロジェクト（SBP）事業」は 一月に三重県の南伊勢高校と天草拓心高校が協働で取り組み、災害時の非常食の開発に向けて、多くのマスコミを前に天草市役所で「キックオフ宣言」を行いました。これから両校がTV会議等を通じて検討していくことになります。皆様のご協力、応援よろしく願いたします。

栖本で開催された、「日本の宝島天草づくり講演会」では多数参加をいただきました。栖本町出身の渡邊健さん（31歳）に講演をいただきました。渡邊さんは、現在会社に勤務をしながら20～30代の天草出身者が集まって、天草を元気にするため、東京で活動している団体「天草元気プロジェクト」の代表を務めておられます。ふるさとを離れ、東京で天草のために活動している若者が活躍していることに大変心強くまた嬉しく思いました。同時に今天草に住む私たちも、この素晴らしい天草をもっともっと持続可能な地域にするために、知恵を絞り活動をしていかなければと思いました。

人間は誰でも前に進むように造られています。目は前を見るのに便利であり、足は前に進むようにできています。私たちの心も未来に生きるように造られているのです。

（平岡和徳氏著書 年中夢休より）

この言葉のように、新年度も前に向かっていきたいと思えます。皆様のご指導ご協力よろしく願いたします。



本渡まちづくり協議会

会長 中川竹治

Vol. 24

令和2(2020)年4月1日号

目次

- 会長あいさつ……………P 1
- 令和元年度事業実績報告……………P2～4
- ふるさと応援寄附金のお礼…P5
- 協議会委員の公葬……………P5
- 各地区の話題……………P6～7
- 天草拓心高校SBP部活動紹介・協賛のお願いなど……………P8

令和元年度 事業実績報告

本渡まちづくり協議会では、「まちづくりは“人”づくり」をテーマに、地域を担う人材の育成や地域の活性化に向けて、「まちづくり研修事業」や「未来の大人応援プロジェクト（SBP）事業」などを実施しました。

まちづくり研修事業

九州かあちゃんサミット視察

【期 日】 令和元年6月8日
【場 所】 鹿児島県さつま町
【参加者】 13人

九州かあちゃんサミット視察は、地区振興会から推薦された人に対し、女性が主体的に活動している団体の活動事例を学んでもらい、今後、各地区での活動に活かしてもらうために、行った視察事業です。令和元年6月8日に、さつま町へ訪問し、さつま町農産加工懇話会の事例を中心にした視察を行いました。さつま町農産加工懇話会では、各個人が農産加工所を起業・実践する個人事業主でありなが



▲パネルディスカッション

ら、会参加者間での情報交換

共同での勉強、容器購入など必要に応じて協力する仕組みを構築されていました。特に、久徳スミ子さんは、平成26年に同会へ参加（当時75歳）され、ドレッシング、あくまき、赤飯、漬物など販売されています。81歳の現在もSNSによる発信・交流、トラクターの運転など新たな取り組みも実践されています。また、他の地域でも農産加工、食事の提供、有害鳥獣の活用などの事例発表がありました。

委員研修

【期 日】 令和元年10月24日
【場 所】 長崎県佐世保市
【参加者】 17人



▲大地といのちの会

委員研修は、まちづくりを推進する協議会委員の育成と特色あるまちづくり活動の展開を推進することを目的として研修を行う事業です。本年度は、令和元年10月24日と25日、長崎県佐世保市と佐賀県伊万里市で先進的な取り組みをされている地域団体の視察を行いました。佐世保市では、「大地といのちの会」を視察。生ごみをリサイクルした土づくりを行い、無農薬、無化学肥料の野菜を栽培されています。この活動でごみの減量化だけでなく、健康や食育にも寄与されています。現在の取り組み状況の説明、EMボカシ（微生物）による生ごみの堆肥化の実演を行っていただきました。伊万里市では、「栄町地域づくり会」を視察。高齢になっても住み慣れた地域で暮ら



▲栄町地域づくり会

振興会職員研修

【期 日】 令和元年12月5日
【場 所】 熊本市、南阿蘇村
【参加者】 10人

振興会職員研修は、まちづくりを推進する事務局職員の育成と特色あるまちづくり活動の展開を推進することを目的として研修を行う事業です。本年度は、令和元年12月5日と6日、熊本市と南阿蘇村で防災に関する取り組みをされている地域団体の視察を行いました。



▲黒髪校区第4町内自治会自主防災会



▲南阿蘇村役場

熊本市では、「黒髪校区第4町内自治会自主防災会」を視察。熊本地震では、自主防災組織として避難所の運営を経験され、トイレの水の確保、避難人員の把握、支援物資の不足など苦心された経験談、熊本地震後は、備蓄品の確保、倉庫の設置、高齢者マップなど取り組みをさらに進めていることなど学びました。南阿蘇村では、すがるの里を視察。また、被災した黒川地区の現場視察や被災した東海大学の学生と交流されている女性の会と熊本地震の体験談を交えた交流会を行いました。



▲すがるの里

「配布」本渡地域の全世帯は、本協議会の活動や各地区のまちづくりに関する様々な情報を広く発信することを目的として、年2回本渡地域の全世帯へ広報紙の配布を行う事業です。多くの地域住民の皆さんのまちづくり活動に対する理解や、まちづくり活動への積極的な参画に向けて啓発を行っています。

未来の大人応援プロジェクト（SBP）

平成30年3月13日に開催した講演をきっかけに、昨年度関係者で協議を行い、今年度から本会と天草拓心高校と連携・協働して実施している事業です。今年度は、天草拓心高校にSBP部が立ち上がり



▲6月2日本渡まちづくり講演会

ました。また、昨年度から引き続き、一般社団法人未来の大人応援プロジェクト代表理事の岸川政之氏にアドバイザーとして本会や天草拓心高校に訪問してもらい、講演会、天草拓心高校での授業・ワークショップなどを行っていただきました。講演や授業、全国高校生SBP交流フェアへの参加を踏まえ、昨年9月には、オリジナルたい焼き（Sの絆焼き・あまりん焼き）と防災非常食の開発という2つのプロジェクトを定めました。たい焼きの販売については、天草を市内外にPRすると共に、得た収益は部の運営や防災非常食の開発経費に活用することを目的としています。また、防災非常食の開発については、災害発生時や避難しているときに天草のおいしいものを食べて元気になってもらいたい



▲9月1日取り組み内容決定

という思いが込められています。この2つのプロジェクトについては、三重県立南伊勢高校、愛知県立高浜高校とテレビ会議を行いながら、今年1月15日には、三重県立南伊勢高校と天草拓心高校の生徒が中心となって天草市役所において防災非常食の開発に関するキックオフ宣言を実施しました。今後取り組みを進



▲10月18日3校テレビ会議



▲キックオフ宣言の様子

め、8月の全国高校生SBP交流フェアで取り組み内容を発表する予定です。
※活動の詳細は、最終面にも掲載

※SBP：Social Business Projectの略で、地域課題をビジネスの手法を用いて解決していくという取り組みです。具体的には、若者高校生が中心となり、地元にある地域資源（人、モノ、自然、歴史、産業など）と交流し、見直し、活用して「まちづくり」や「ビジネス」を提案していく。そして、その取り組みを地域で応援し支えていくというものです。



善意の寄附ありがとうございました(敬称略)

〔令和元年9月～令和2年2月 本渡まちづくり協議会受領分〕

〇ふるさと応援寄附金として

井藤 尚仁 (東京都)	小泉 洋 (茨城県)	矢野 秀利 (大阪府)
萩間 昭宏 (静岡県)	佐藤 辰夫 (東京都)	後藤 静香 (三重県)
山中 則和 (奈良県)	田内 哲三 (神奈川県)	笠原 優子 (東京都)
周 洪華 (東京都)	大須賀映夫 (神奈川県)	下村 謙介 (神奈川県)
乗富 晴美 (大阪府)	伊藤 良一 (愛知県)	八嶋 孝明 (大阪府)
南雲 彩 (千葉県)	手島 奈穂子 (千葉県)	山崎 拓真 (東京都)
片桐 真吾 (大阪府)	高田 輝彦 (京都府)	平田 裕司 (東京都)
野中 肇 (東京都)	町 厚人 (大阪府)	片瀬 恒利 (千葉県)
大菅 雅晴 (東京都)	安藤 健一郎 (愛知県)	北 克則 (大阪府)
鈴木 俊昭 (静岡県)	高瀬 良 (神奈川県)	小林 正一 (神奈川県)
中村 幸文 (奈良県)	竹森 美音 (広島県)	小林 順子 (東京都)
下島 隆志 (大阪府)	豊田 真之 (東京都)	三浦 祐司 (山形県)
前野 基行 (宮崎県)	加瀬 大介 (埼玉県)	久住 智幸 (神奈川県)
徳留 宏紀 (大阪府)	小湊 正則 (山梨県)	長尾 真美 (東京都)
中島 宏樹 (大阪府)	亀井 美里 (愛知県)	坂井田 桂市 (岐阜県)
沢井 太一 (東京都)	坂井 義栄 (新潟県)	角谷 徳芳 (神奈川県)

その他、118人の方にご寄附いただきました

「ふるさと納税」で、天草本渡のまちづくりを応援してください。応援したいまちづくり協議会または地区振興会を指定できます。市外にお住まいのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ご周知くださいますようよろしくお願いいたします。

令和元年度 事業実績一覧

実施期日・期間	「事業名」(実施場所)	参加者
	事業内容	
令和元年 6月 2日	「本渡まちづくり講演会」(天草市民センター大会議室) 岸川政之氏の講演会	101人
令和元年 6月 3日	「未来の大人応援プロジェクト(SBP)」(天草拓心高校) 岸川政之氏の講演会、ワークショップ、打ち合わせ	約100人
令和元年 6月 7日	「第1回 まちづくり協議会」会議(天草市役所庁議室) 平成30年度 事業実績・収支決算の報告・承認 令和元年度 事業計画・収支予算の審議・決定	22人
令和元年 6月 8日	「九州かあちゃんサミット」(鹿児島県さつま町) さつま町農産加工懇話会の事例発表、参加団体の事例発表	13人
令和元年 7月 12日	「未来の大人応援プロジェクト(SBP)」(天草拓心高校) 岸川政之氏から本会委員への事例紹介、天草拓心高校SBP部への授業	約40人
令和元年 8月 22日 ～8月 25日	「未来の大人応援プロジェクト(SBP)」(三重県伊勢市ほか) 愛知県立高浜高校との交流、第4回全国高校生SBP交流フェア視察 事例発表・質疑・審査、販売交流会(夜の市)、セミナーなど	15人
令和元年 9月 1日	「未来の大人応援プロジェクト(SBP)」(天草拓心高校) 取り組み内容(プロジェクト)の決定、岸川政之氏の授業、ワークショップ	約30人
令和元年 10月 1日	「Vol.23 まちづくり協議会だより発行」事業(本渡地域配布) 令和元年度 事業計画・収支予算、第4回全国高校生交流フェア内容 紹介、各地区の話題、天草拓心高校SBP部の活動紹介などを掲載	-
令和元年 10月 18日	「未来の大人応援プロジェクト(SBP)」(天草拓心高校) 3校テレビ会議、岸川政之氏の授業、ワークショップ、動画作成方法	約30人
令和元年 10月 24日 ～10月 25日	「まちづくり研修」事業(長崎県佐世保市、佐賀県伊万里市) 長崎県佐世保市:大地といのちの会 佐賀県伊万里市:栄町地域づくり会	17人
令和元年 12月 5日 ～12月 6日	「まちづくり研修」事業(熊本市、南阿蘇村) 熊本市:黒髪校区第4町内自治会自主防災会 南阿蘇村:南阿蘇村役場、すがるの里	10人
令和2年 1月 15日	「未来の大人応援プロジェクト(SBP)」(天草市役所庁議室) 天草拓心高校・三重県立南伊勢高校の協働によるSBP事業キック オフ宣言	約60人
令和2年 4月 1日	「Vol.24 まちづくり協議会だより発行」事業(本渡地域配布) 令和元年度 事業報告、ふるさと応援寄附金のお礼、まちづくり協議会 委員募集、各地区の話題、天草拓心高校SBP部の活動紹介などを掲載	-

本渡まちづくり協議会の委員を募集します。

本渡まちづくり協議会は、本渡地域内の各地区振興会の代表者、公共的団体等の代表者や公募委員など20人の委員で組織されており、まちづくりに係る提案やまちづくり事業の企画・立案・実施をはじめ、住民主体のまちづくりを推進する役割を担うものです。

本年6月末の任期満了に伴いまして、以下のとおり協議会の委員を募集いたしますので、まちづくりに対する熱い思いをお持ちの方のご応募をお待ちしております。

※応募者多数の場合は、本渡まちづくり協議会で選考を行います。

【募集定員】2名程度(任期2年)

【応募資格】旧本渡市内に住所を有する人

【応募期限】令和2年4月27日(月)必着

【応募方法】住所、氏名、年齢、職業、連絡先、応募動機をご記入のうえ、以下までご郵送またはご持参ください(応募用紙は任意)。

〒863-0023 天草市中央新町15番7号
天草宝島国際交流会館ポルト2階
天草市まちづくり支援課内
本渡まちづくり協議会事務局 電話 32-6661





花づくり教室を開催しました！

佐伊津地区振興会 会長 原田 康秀

11月10日、初めての取り組みとして花づくり教室を開催しました。

83名の方に参加していただき、皆さん楽しそうに取り組まれていました。

最初にコミセンの講堂において講師による花づくりに関する講演を聞き、次に地区のシンボル花壇（明瀬三叉路国道沿植込み）に移動して、パンジーの苗の植え付けを行いました。最後はコミセンに戻り参加者それぞれが、マイプランター作りに精を出していました。

今後は、佐伊津地区のシンボル花壇を皆で大切に、花いっぱいのもちづくりに取り組んで行こうと思います。

「宮地岳かかし村」開村中！

宮地岳地区振興会 会長 松川 莞爾

今年もまた、春の風物詩「宮地岳かかし村」3月29日に開村しました。今年のテーマは「2020 かかし村オリンピック」。今年の夏に開催される東京オリンピックに向けて、かかし達がオリンピック記録に挑戦します。また、今では見られない、昔の農具や遊び、お祭りなど昔なつかしい情景を楽しむことができます。宮地岳町民の人口に迫る約470体の表情豊かな「かかし」たちが皆さんのお越しをお待ちしています。春の陽気に誘われて「宮地岳かかし村」で心癒せる時間を過ごしてみませんか。かかしの展示は5月6日頃までです。



かかし村オリンピック

本町よかところフォトコンテスト開催

本町地区振興会 会長 岡部 養一



▲フォトコンテスト展示会のようす

地域おこし事業として2月8日から2月11日まで本町ふるさと美術館において「本町よかところフォトコンテスト」を開催しました。昨年3月から11月までの期間、本町の素晴らしい自然や日常の光景、伝統行事等をテーマとして作品を募集したところ15名48点の作品が集まりました。出品作品の中からグランプリや特選、入選を決定し、美しい本町の自然や本町の人々の暮らし等を生き生きと捉えた全作品を展示しました。

4日間の展示会を通して多くの来館者の目をくぎづけにし、新たな本町の良いところを再発見する機会となりました。

小学生が案内役のスタンプラリー大会を開催

楠浦地区振興会 会長 鬼塚 清武

1月19日に第10回楠浦よかところスタンプラリー大会を開催しました。この大会は、楠浦町の良さを感じてもらうために、町内の名所や文化財を巡るスタンプラリーです。

当日は、途中小雨も降る生憎の天候でしたが、町内や市内外、遠くは熊本市内からも参加があり、賑やかな大会となりました。

各ポイントでは、楠浦小学校4年生が参加者に名所等の説明を行い、楠浦のよかところを一生懸命伝えていました。また、小学生が考えたクイズも出題するなど、和やかな雰囲気の中、約7kmのコースを皆さんゴールされていました。

終わり際、参加者から来年もまた参加したいとの声は、スタッフへの励みの言葉となりました。



▲スタンプラリーのようす



▲ポンカン早積み大会の様子

第28回下浦町ふるさと祭りを開催しました

下浦地区振興会 会長 松岡 政幸

2月2日に、第28回下浦町ふるさと祭りを開催しました。「石工・ほんかんの里」下浦町が世界に誇る石工の技術と、温暖な気候で作られるおいしいほんかんをPRするために始まったこの祭りも今年で28回目を数え、町内外から多くのお客様がいらっしゃる大規模な行事になりました。

恒例のほんかんピラミッド早積み大会、石玉ボウリング大会や石窯ピザ、ほんかんもちの販売といった出店に加え、特別ゲストによる歌謡ショーや天草ハイヤ踊りも行われ、大賑わいでした。今回は天候にも恵まれ、約4,000人の来場者がありました。

来年は29回、再来年はいよいよ30回をむかえるこの祭りを継続していきたいと思っています。

各地区の話題

本渡南地区「健康づくり」ミニバレーボール大会を開催

本渡南地区振興会 会長 海江田 雅靖

2月9日に、「親睦と健康づくり」を目的にミニバレーボール大会を開催しました。この大会は選手年齢をフリー、40歳以上、60歳以上の部の三つのグループに分けて行っています。各地区で編成された選手の皆さんは、日頃の練習の成果を発揮され、コートの中で一生懸命ボールを繋いでいました。チームの得点となってもならなくても歓声があがり、楽しい一日となりました。



▲白熱する試合のようす



▲これから見頃となるツツジ

“ツツジ咲く広瀬川河岸”

本渡北地区振興会 会長 金澤 一紀

毎年、4月下旬から5月上旬にかけて、広瀬川両岸には、ツツジが見事に咲き誇ります。

平成24年には、「くまもと景観賞」にツツジ咲く広瀬川河岸が選ばれました。この受賞は、地域住民の長年にわたる美しい景観づくりの取り組みが高く評価されたものです。現在もこの取り組みは継続されており、今年もこれから見頃を迎えます。この機会にぜひ、足をお運びください。

冬のシンボル！イルミネーション事業

亀場地区振興会 会長 河野 昇

12月1日から1月4日までの約1ヶ月間、亀川小学校の国道沿いのフェンスや学校内の並木、遊具、倉庫に約1万球のイルミネーションを設置しました。今回も設置や撤去作業には、稜南中学校美術部の皆さんに協力してもらい、スムーズに実施することができました。今後もまちづくり事業の一環として取り組み、地区振興会事業の理解と関心を高めていきたいと思っています。



▲イルミネーション点灯（亀川小前）



▲注意事項言いますよ！

大人気！グラウンドゴルフ大会

志柿地区振興会 会長 福島 実

2月2日に志柿町グラウンドゴルフ大会を開催しました。

今年は天気にも恵まれポカポカ陽気の中、3コース24ホールを皆さん元気にプレーされていました。子どもから大人まで参加できるグラウンドゴルフなので、お孫さんと一緒に参加されている方もいて、とても嬉しそうなおじいちゃん、おばあちゃんも見るのが出来ました。

集計をしている間のお楽しみ抽選会も盛り上がりを見せていました。

来年はもっと多くの子ども達にも参加してもらえよう声掛けしていこうと思いました。

振興会での視察研修！

伊宇土地区振興会 会長 平山 辰巳

2月15日から16日に、鹿児島県杵臼良市の鹿児島県防災研修センターへ視察研修に行きました。同センターでは、火山災害・風水害・土砂災害・地震・火災の各コナで災害についての説明を聞き、その後、研修室でゴミ袋を使った防災合羽作りの体験をすることが出来ました。防災合羽は簡単にでき、いざというときすぐにできるので地域の防災訓練でも広めていきたいと思っています。今回の視察研修の経験を活かし、これからの安心安全な伊宇土のまちづくりに繋げていきたいと思っております。



▲鹿児島県防災研修センターで防災合羽作り！

ほんどのいま

令和2年3月1日現在
(令和元. 9. 1との比較)

【本渡南】	男……………3,813人 (- 49)
	女……………4,435人 (- 4)
	計……………8,248人 (- 53)
	世帯数……………3,772 (+ 6)
	高齢化率……………33.4%
【本渡北】	男……………5,500人 (- 3)
	女……………6,006人 (+ 6)
	計……………11,506人 (+ 3)
	世帯数……………5,020 (- 3)
	高齢化率……………23.5%
【亀場】	男……………2,049人 (+ 21)
	女……………2,326人 (- 9)
	計……………4,375人 (+ 12)
	世帯数……………1,814 (- 1)
	高齢化率……………24.7%
【栢宇土】	男……………299人 (- 1)
	女……………320人 (- 1)
	計……………619人 (- 2)
	世帯数……………266 (+ 3)
	高齢化率……………45.9%
【志柿】	男……………1,278人 (- 5)
	女……………1,488人 (- 2)
	計……………2,766人 (- 7)
	世帯数……………1,214 (+ 2)
	高齢化率……………35.3%
【下浦】	男……………794人 (- 10)
	女……………923人 (- 18)
	計……………1,717人 (- 28)
	世帯数……………766 (- 7)
	高齢化率……………44.1%
【楠浦】	男……………1,141人 (- 2)
	女……………1,257人 (- 4)
	計……………2,398人 (- 6)
	世帯数……………1,004 (+ 3)
	高齢化率……………37.4%
【本町】	男……………831人 (- 9)
	女……………883人 (- 5)
	計……………1,714人 (- 14)
	世帯数……………838 (- 1)
	高齢化率……………39.8%
【佐伊津】	男……………1,531人 (- 13)
	女……………1,677人 (+ 3)
	計……………3,208人 (- 10)
	世帯数……………1,421 (- 4)
	高齢化率……………36.3%
【宮地岳】	男……………251人 (0)
	女……………252人 (0)
	計……………503人 (0)
	世帯数……………240 (0)
	高齢化率……………50.9%
【合計】	男……………17,487人 (- 71)
	女……………19,567人 (- 34)
	計……………37,054人 (-105)
	世帯数……………16,355 (- 2)
	高齢化率……………31.2%

【編集・発行】

本渡まちづくり協議会

【事務局】

天草市 地域振興部
まちづくり支援課

〒863-0023

熊本県天草市中央新町15番7号

TEL 0969-32-6661

FAX 0969-23-1999

E-mail machidukuri@city.amakusa.lg.jp

天草拓心高校SBP部の活動紹介

現在、私たちは、あまりん焼き（天草オリジナルたい焼き）と防災用非常食を作るプロジェクトを進めています。

あまりん焼き



表 裏

▲デザインイメージ

今までに何度も試作を重ねてきました。天草のオリーブオイルを生地に混ぜてみたり、本校で取れたブドウや天草産の果実を具材として入れたりしました。

あまりん焼きは、天草の「あま」と海という意味の「マリン」を組み合わせた名前です。

このデザインは、天草のシンボル花のハマボウといるかをモチーフにしています。



▲試作のようす

防災用非常食



▲キックオフプレゼン発表者と天草市長

宣言とこれまでの活動についての発表を南伊勢高校の生徒と一緒に行いました。その際に新聞やテレビなどのメディアに多く取り上げていただきました。

非常食については、三重県立南伊勢高校の生徒から、南海トラフ地震が心配であること、熊本は熊本地震の被災経験があること、両県とも海に面していることから、非常食の開発について提案を受けました。先日は天草市役所で、この防災用非常食開発のキックオフ

春にはイベントであまりん焼きのお披露目をできるよう準備を進めています。そこでの販売を成功させ、天草のことや私たちの活動についてもっと多くの人に知ってほしいです。非常食についても南伊勢高校と協力して開発を進め、天草の魅力をさらに全国へ広めて行きます。皆様、応援よろしくお祈いします！
なお、私たちの活動については、学校ホームページ内SBPのコーナーで随時お知らせします。また、このプロジェクトには、多額の資金が必要です。ご協賛いただけると幸いです。